

写真展 イマジンイラク

三十年の孤独

2009/10/8~11/5



イラク・・・30年前 まだ平和だったころ

1977年、イラク南部・バスラ市内住宅地の街路で、咄嗟のスナップ。こうした街の荒廃した今日のありさまを思うのが辛い・・・

会期：10月8日(木)～11月5日(木)

カフェ営業時間：月～金 9:00～17:00；土 10:00～17:00；日・祝 休み

会場：みんなのカフェ ちいろば

京阪藤森駅から徒歩3分。駅から東に進むと（線路を背にして左側の改札を出て左すぐの疎水の橋を渡ってまっすぐ進むと）直違橋（本町通り）に出ます。そこを北に（左に）曲がって下さい。

住所：京都市伏見区深草直違橋4-370

TEL：075-643-2476 メール：info@oozu.co.jp



至 中書島・淀屋橋

☆☆☆ イベント案内 (裏面につづく) ☆☆☆

10月11日(日) 15:00～17:00 (参加費：ワン・オーダー)

トーク：よしはらしげる さん (写真提供)

1946年新潟県高田生まれ。1977年4月～80年10月までイラクに在住、おもにイラクの若いエンジニアたちと交遊する(プラント建設事業の一環として)。在イラク中にしばしばアラビア湾奥からクルディスタン山中に遊ぶ。イイ戦争勃発によりやむなく帰国。1988年春に信越国境、黒姫山中に移住、以後無為徒食。1993年以降はインターネットに『黒姫の野鳥たち』『黒姫から・七曜版』『黒姫山麓の蝶たち』などを公開している (<http://with-kurohime.blogspot.com/>)。

写真提供：黒姫のよしはらしげるさん、相澤恭行さん ほかイラクに関する多くの方々

協力：NPO法人 PEACE ON 主催：イマジンイラク 実行委員会 (問合せ) imagine_iraq@yahoo.co.jp /090-2044-4544 (水野)

『冬の兵士』朗読会+DVD上映 (参加費: ワン・オーダー) ※

朗読会: 10月10日(土) 14:00~16:00くらい※※

上映会: 10月17日(土) 14:00開場 (本編 14:30~16:00)

協力: 「冬の兵士」京都プロジェクト・TUPプロジェクト

※オーダーは催しの前後にお願いします。

※※終了後にミニライブを予定(未定)しています。

イラク・アフガニスタン帰還兵たちの証言集◆戦場の真実を告発

-ジョン・マイケル・ターナー (元海兵隊員)
「私たちはテロリストと戦っていると教えられました。
ところが、本物のテロリストは私だった」

-カミロ・メヒア (元フロリダ州兵)
「息子と車にいた父親の首を機関銃で打ち落とした」

-クリストファー・ゴールドスミス (元陸軍軍曹)
「イラク人は嫌いだ。石やレンガを投げてる子どもは嫌いだ」

イラクやアフガニスタンからの帰還兵の赤裸々な証言、
キューバ・グアンタナモで捕虜を扱った兵士の告白、
軍内部での性犯罪を告発する匿名の女性兵士、
息子を亡くした親のメッセージ、イラク市民の生の声……。

かつてない規模でこの戦争の真実を告発する彼らの証言をつづった
書籍『冬の兵士』から数本を選び、彼らと同じ年代の声で証言を読み上げます。

朗読してくれる方を募集しています。
興味のある方は山根 (soy_mio@softbank.ne.jp)
までご連絡ください。



2009年夏、
岩波書店より
刊行予定。

翻訳には TUP (平和をめざす翻訳者たち) があたっています。

上映会: 『イラクーヤシの影で』

協力: 山形国際ドキュメンタリー映画祭

10月31日(土), 11月3日(火・祝)

14:00開場 (14:30 開演~16:00) 入場料: 500円



2003年春、イラク攻撃4週間前。アメリカによる攻撃開始が予見されながらも日々の日常に勤しむバクダットの人々。イラクと世界に対する見解や立場はそれぞれに異なるが、朗らかであった人々の空気は、攻撃開始後一変する。世界がプロパガンダの嵐にさらされる中で、監督は自分の目で見た「イラク」を伝える。

イマジニイラク・プロジェクト (IIP) とは:

「自分たちの世代は平和だったころのイラクを知っているけれど、今の若い人たちは生まれたときから戦争と暴力ばかりで、平和だったイラク社会を知らない。そのことが、イラクの未来にとって大きなダメージとなる。」 (イラク人画家: シルワーン・バラン, 2006年10月 東京 岡真理のインタビューに答えて)

イラクがまだ平和だったそう遠くない過去、イラクに滞在し人生においてかけがえの無い「出会い」をした多くの人たちが日本各地にいます。そんな皆さんの手元に残したアルバムから、それぞれの思い出の中の「平和だったころのイラク」を紡ぎ合わせたなら……

ジャーナリズムが伝える現在のイラクの悲惨さの“向こうにあるもの”……長い長い戦乱のもとで、イラクで何が壊され何が失われたのか……写真を通じて、戦乱の時代しか知らないイラクの若い世代にも、平和だったころのイラクの風景を思い起こすことで、平和のメッセージを伝えられないだろうか……。

そんな思いから、このプロジェクトは始まりました。むかしイラクに滞在したときの写真を提供できる方、また、このプロジェクトに参加してみたいという方、ご連絡をお待ちしております。(みずの)